

## 「沈む夜 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「沈む夜」・・・何か芥川賞受賞作の題名のようなが、これは小説の題名ではない。何かの比喻(ひゆ)ではなく、本当に夜が沈むのである。これは、「地球影(ちきゅうえい)」が起こす現象の話題である。



「沈む夜」初版本 田中千尋著 / 岩波書店 / 絶版  
もちろんジョークです。真面目に探さないでください。

天体が西の空に沈む現象は「入り」或いは「没」と表現される。例えば月が沈む時は「月の入り」「月没」という。太陽なら「日の入り」「日没」である。



「暮れなずむハンガリー大平原」ハンガリー語では、「ナプレメンテ」という。これを見る為に渡航した。



惑星の場合も同じである。写真は三日月と金星が、黄道(太陽の通り道)に沿って、西の地平線に沈む様子である。天文用語では金星が沈むことを「金星の入り」または「金星没」という。ちなみに、書いた雑誌の記事が戻ってくることを「原稿没」という。



恒星の場合も同じ表現をする。写真はオリオン座が西の地平に沈む一瞬である。恒星の場合「ベテルギウス入り 23 時 4 分」とか「シリウス没 3 時 11 分」という表現をする。さて、「夜が沈む」とは、どんな現象で、実際にどんなふうに見えるのだろうか？